

I. 以下の〔1〕,〔2〕,〔3〕,〔4〕および〔5〕は古代から近代までの宗教にかかわる出来事に関する文章である。この文章を読み、下記の設問に答えなさい。

〔1〕

仏教は6世紀に伝来したが、7世紀のものとされる法隆寺の〔1〕〔2〕に施された捨身飼虎図や8世紀に入ってから〔3〕〔4〕が設けた悲田院や施薬院には、苦しみのなかにある人々の救済という仏教思想を見て取ることが出来る。そして8世紀の半ばには東大寺において〔5〕〔6〕経に基づいた<sup>(ア)</sup>盧舎那仏の開眼供養が営まれた。

〔2〕

〔7〕〔8〕は留学からの帰国後、唐の長安で学んだ新訳の經典の紹介のみならず、<sup>(イ)</sup>一定の儀式により自らが仏と成る仏教のあり方をも示した請来目録という文書を朝廷に提出しているが、その仏教世界を図像で示したものが〔9〕〔10〕であった。また、彼が留学前の797年に著したものに〔11〕〔12〕がある。若き日に出会った仏教がいかに儒教や道教より優れた教えであるかを説いた半自伝的書物である。

〔3〕

1175年に〔13〕〔14〕は〔15〕〔16〕による極楽浄土を説く浄土宗を開いた。しかし1207年には〔15〕〔16〕停止が命じられ、彼は四国に流罪となった。また彼のもとで修行していた〔17〕〔18〕は〔19〕〔20〕に流罪となった。〔17〕〔18〕はその後20年ほど関東に滞在し、<sup>(ウ)</sup>当時の弟子と後に京で再会した際に、「弥陀の本願には、〔21〕〔22〕のひとをえられず、たゞ信心を要とすとしるべし」と語っていたことが、歎異抄のなかに書き残されている。

〔4〕

1582年に〔23〕〔24〕人の<sup>(エ)</sup>宣教師ヴァリニャーニが同行して長崎から出発した〔25〕〔26〕遣欧使節は、三人のキリシタン大名が派遣した四少年から構成されていた。三人のキリシタン大名とは大友義鎮、有馬晴信、〔27〕〔28〕の三人であり、四少年のなかでは正使が伊東マンショと〔29〕〔30〕,そして副使として〔31〕〔32〕と原マルチノが従った。帰国途上の1587年豊臣秀吉が〔33〕〔34〕令を発していることがわかったが、1590年に帰国した一行は翌年京に上り、豊臣秀吉に拝謁した。

〔5〕

1868年に〔35〕〔36〕令が発せられて、天地の神々の祭祀を司る〔37〕〔38〕行政に重きが置かれ、<sup>(オ)</sup>神仏習合が否定されて、〔39〕〔40〕が全国的な動きとなった。<sup>(カ)</sup>太政官では〔37〕〔38〕省、次いで神仏儒合同を図る教部省が置かれたが、1885年に定められた〔41〕〔42〕制度以後は教部省は廃止されて、内務省社寺局となった。

〔A〕 文中の空欄 (1) (2) ～ (41) (42) に当てはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。

〈〈語群〉〉

- |           |            |            |           |            |
|-----------|------------|------------|-----------|------------|
| 11 イタリア   | 12 一遍      | 13 越後      | 14 縁起絵巻   | 15 大村純忠    |
| 16 隠岐     | 17 踊念仏     | 18 議会      | 19 行基     | 20 キリシタン禁教 |
| 21 空海     | 22 慶長      | 23 華厳      | 24 顕戒論    | 25 光明皇后    |
| 26 国教分離指  | 27 小西行長    | 28 金堂壁画    | 29 西行     | 30 最澄      |
| 31 三経義疏   | 32 三教指帰    | 33 只管打坐    | 34 聖徳太子   | 35 神祇      |
| 36 神社     | 37 神仏分離    | 38 親鸞      | 39 スペイン   | 40 専修念仏    |
| 41 高山右近   | 42 玉虫厨子    | 43 男女貴賤    | 44 千々石ミゲル | 45 対馬      |
| 46 天寿国繡帳  | 47 天正      | 48 天文      | 49 道元     | 50 内閣      |
| 51 内藤ジョアン | 52 中浦ジュリアン | 53 ナショナリズム | 54 廃仏毀釈   | 55 バテレン追放  |
| 56 般若心    | 57 風信帖     | 58 文久      | 59 文明開化   | 60 法然      |
| 61 ポルトガル  | 62 曼荼羅     | 63 維摩      | 64 来迎図    | 65 立憲      |
| 66 老少善悪   | 67 和気広虫    |            |           |            |

〔B〕 下線部（カ）の太政官に関する説明として、以下の4つのうちに誤っている説明が1つある。その番号を解答用紙 A（マークシート）の解答欄 (43) にマークしなさい。

- 1 廃藩置県後には太政官は正院、左院、右院の三院制となり、正院のもとに各省が置かれた。
- 2 各省の長官は卿と呼ばれた。
- 3 1874年、左院に民撰議院設立の建白書が提出された。
- 4 1877年、内務省が新設された。

〔C〕 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部（ア）の盧舎那仏を中心とした東大寺は、いかなる思想を具現するものであったか。
- (2) 下線部（イ）のような仏教のあり方を、經典中心の仏教に対して何と呼んだか。
- (3) 下線部（ウ）に記す弟子の名前は何と言うか。
- (4) 下線部（エ）の宣教師ヴァリニャーニが属していた会派は何と呼ばれていたか。
- (5) 下線部（オ）の神仏習合で、神とは仏がその姿を借りてこの世に現れたものだとする説は何と呼ばれているか。

## Ⅱ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

幕府は1825年に異国船打払令を発したが、その後、(ア)清がイギリスとの戦いに敗れたことを知ると国防政策を転換し、(44) (45) 年に薪水給与令を出した。しかし、開国や通商を求める諸外国の圧力が弱まることはなかった。ペリー来航当時幕政の中心にあった(イ)阿部正弘は、前水戸藩主(46) (47) を幕政に参画させ、海防問題にあたらせた。幕府は、江戸湾に(48) (49) を築造したほか、大船建造の禁を解くなどして国防強化をはかった。このころ、雄藩と呼ばれる諸藩においても、軍事力の強化に向けての動きがみられた。たとえば、(ウ)薩摩藩は兵器製造などを目的とする洋式工場群を設け、また、肥前(佐賀)藩では大砲製造のため、1850年に(50) (51) の築造に着手している。

幕末に幕府や諸藩によって作られた施設の一部は、明治新政府に引き継がれた。たとえば、1865年に幕府が設立した(52) (53) 製鉄所は、明治政府の下で(52) (53) 造船所と改称され、のちに海軍工廠となった。幕府が軍艦の操縦訓練のために設けた(54) (55) の付置施設である長崎製鉄所も、明治政府に引き継がれ、(エ)長崎造船所と改称された。

幕末期の貿易に目を転じると、(56) (57) 年にアメリカをはじめとする5か国との間で修好通商条約が結ばれ、翌年には長崎・(58) (59) ・(60) (61) の3つの港で貿易が始まった。貿易開始当時の輸出入額は、これら3港のうち(58) (59) が最も多く、貿易相手国でみると(62) (63) との取引が最大であった。

貿易が始まったことで、国内在来産業は大きな影響を受けた。貿易開始当時、輸出品の中心となったのは生糸であった。生糸が輸出用に大量に買い付けられ、(オ)国内では品不足や価格の高騰などの弊害が生じただけでなく、江戸の間屋を中心とする流通機構も崩れていった。このような需要の拡大を受けて、国内の生糸生産量は急増する一方で、日本製の生糸の品質改良を求める声も高まりはじめた。明治政府は、(64) (65) 年に生糸の品質向上や近代技術の習得のため、(66) (67) 人の技術指導を受けて富岡製糸場を設けた。その後民間の製糸業においても器械製糸が普及しはじめ、1890年代半ばには器械製糸の生産量が(カ)従来の簡単な手動装置による製糸技術の生産量を上回るまでになった。

一方、在来綿業は、貿易開始にともなって大量の綿製品の流入にさらされた。このうち綿糸についてみると、幕末期の日本の紡糸技術は、手回し紡車による手紡ぎで、機械紡績とは生産性に大きな開きがあった。1867年には日本初の機械紡績工場が設けられているが、これ以降ただちに洋式機械による紡績が主流になったわけではなく、(キ)ガラ紡と呼ばれる国産の紡績機が在来綿業地域で急速に広まった時期もあった。洋式機械紡績の本格的普及の契機となったのは、(ク)渋沢栄一らが設立した(ケ)大阪紡績の成功である。その後紡績業は発展の道を歩んでいくが、その過程には他産業の発達も深く関わっている。たとえば、(コ)1885年に2つの海運会社が合併して新たな海運会社が生まれた。この海運会社が1893年に開設した(68) (69) 航路は、原料である綿花の輸送に寄与した。

〔A〕 文中の空欄 (44) (45) ～ (68) (69) に入る最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 1837	12 1842	13 1846	14 1853	15 1854
16 1856	17 1858	18 1872	19 1877	20 1882
21 アメリカ	22 アントワープ	23 イギリス	24 イタリア	25 浦賀
26 オーストラリア	27 オランダ	28 海軍伝習所	29 外国奉行	30 開成所
31 鹿児島	32 久留米	33 講武所	34 越前方	35 シアトル
36 下田	37 下関	38 台場	39 鎮台	40 鉄座
41 銅山	42 徳川昭武	43 徳川家斉	44 徳川斉昭	45 徳川慶喜
46 新潟	47 箱館	48 反射炉	49 兵庫	50 フランス
51 ボンベイ	52 八幡	53 横須賀	54 横浜	55 ロシア

〔B〕 下線部（ケ）について、当時の大阪紡績に関して下の選択肢から最も適切なものを1つ選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の解答欄 (70) にマークしなさい。

- 1 アメリカから輸入した紡績機械を使用して、操業を開始した。
- 2 工場動力として水力を用い、機械の安定操業に成功した。
- 3 政府が奨励した2000錠紡績工場の不振に学び、それ以下の規模で操業を開始した。
- 4 昼夜二交代制を採用することで、機械の稼働率を高めた。

〔C〕 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部（ア）について、この戦いを何というか。
- (2) 下線部（イ）について、阿部正弘を中心として進められた幕政改革を何というか。
- (3) 下線部（ウ）について、この洋式工場群を何というか。
- (4) 下線部（エ）の長崎造船所は1887年にある会社に払い下げられた。その払い下げを受けた会社の名前を書きなさい。
- (5) 下線部（オ）について、こうした状態は生糸以外の商品にもみられたため、幕府は対策として1860年にある令を発した。この令を何というか。
- (6) 下線部（カ）について、この製糸技術を何というか。
- (7) 下線部（キ）について、ガラ紡を発明した人物の氏名を書きなさい。
- (8) 下線部（ク）の渋沢栄一は、近代的金融制度の整備を目指して1872年に公布されたある条例の制定に関わっている。この条例を何というか。
- (9) 下線部（コ）について、この新たな海運会社の名前を書きなさい。

### Ⅲ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

企業は利益を獲得して成長するために、工場の自動化などによる効率性の追求や、新規事業への進出などのさまざまな経営努力を行っているが、多くの外部的な要因も企業の業績には影響している。ここでは、その時々を経済全体の状況と、その企業が属する産業ごとの状況という2つの外部的な要因の観点から、戦後の日本の歴史を振り返ってみることにする。

まず戦後の経済状況の変化を概括してみると、企業が業績を容易に伸ばすことが可能な時代もあれば、企業努力が業績に反映されづらい時代もあることがわかる。1950年に始まった朝鮮戦争による特需を契機として、日本経済は戦後の不況を脱する。その後一時的な不況をはさむものの、1956年の(71)(72)で「もはや(73)(74)ではない」と書かれるほど日本経済は回復し、4つの大型景気を含み約20年間にわたる長期的な高度経済成長期を迎える。4つの大型景気にはそれぞれ名称がつけられており、三番目の景気上昇期を(75)(76)景気、四番目の景気上昇期を(77)(78)景気という。この時期には、三井・三菱・住友・富士・第一・(a)の六大企業集団も形成されたほかに、さまざまな新興企業が急成長をとげて大企業化した。

変動為替相場制への移行や第1次石油危機を経て、(79)(80)年には戦後で初めてマイナスの経済成長率となる。しかし、産業用ロボットなどの利用による工場の自動化や、人件費の削減や省エネルギーなどの(b)経営が功を奏し、(81)(82)年の第2次石油危機をはさむものの、日本経済は安定成長期を迎える。その後の一時的な円高不況を経た1980年代後半に、(ア)株式や土地が(83)(84)的に取引されて価格が高騰するバブル経済が始まるが、数年でバブル経済は崩壊してしまう。

一方、このような大きな経済の流れだけではなく、それぞれの企業が属する産業の状況も個々の企業の業績に影響を与える。高度経済成長期には、第一次産業から第二次産業および第三次産業に重点が移行するという産業構造の高度化がおきた。(c)と呼ばれる地域に石油化学コンビナートが建設されるなど、第二次産業の中で重化学工業化がはかられたのもこの時代である。その一方で、エネルギー源として石油が用いられることで、石炭産業が斜陽化している。1980年代には、コンピュータやこの時期に産業のコメといわれた(85)(86)などの(87)(88)分野に属する産業が成長した。また、経済のサービス化が進んで第三次産業の従事者がより一層増加したが、高度経済成長期に躍進した造船や鉄鋼などの産業は成長が停滞した。さらに、(イ)この時期には行政改革が実施され、国鉄、電電公社、(89)(90)の民営化が行われた。

最後に、企業が国民の生活に与える影響についても考えてみよう。戦後すぐに、経済の民主化の一環として、(ウ)労働者を保護するために労働三法が制定された。高度経済成長期には(d)雇用制と(e)賃金が多くの大企業で導入されて従業員の生活が安定し、三種の神器や(エ)新三種の神器といった製品を購入することが一種のステータスとなった。その一方で大気汚染や水質汚濁などの問題も深刻になったため、1967年には(f)基本法が制定され、(91)(92)年には環境庁が発足したが、現在も二酸化炭素の排出量の削減が長期的な課題となるなど、新たな環境問題が次々と発生している。労働環境についても、1985年に雇用や昇進について女性に対する差別を禁止する(g)法が制定されたが、長時間労働による過労死問題など、解決すべき課題が多く残されている。このように、企業は外部的な要因から影響を受けるだけでなく、企業で働く従業員の生活や社会に対しても大きな影響を与えているのである。

〔A〕 文中の空欄 (71) (72) ～ (91) (92) に入る最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 1968	12 1971	13 1972	14 1974	15 1975
16 1977	17 1979	18 1980	19 いざなぎ	20 岩戸
21 沖縄返還協定	22 オリンピック	23 経済安定九原則		24 経済白書
25 携帯電話	26 国民所得倍増計画		27 食糧難	28 神武
29 戦後	30 専売公社	31 ソフトウェア	32 貯蓄	33 投機
34 投資	35 道路公団	36 ネット	37 敗戦	38 ハイテク
39 半導体	40 万博	41 不況	42 郵便事業	43 ユビキタス

〔B〕 下線部（ア）に関して、バブル経済およびその崩壊について下の選択肢から最も適切な記述を 1 つ選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の解答欄 (93) にマークしなさい。

- 1 バブル経済時の投資先は日本国内にほぼ限定され、海外への投資はほとんど行われなかった。
- 2 バブル経済は、高金利政策による資金の余剰を原因としている。
- 3 まず株価の下落が始まり、次に地価の下落が生じてバブル経済は崩壊した。
- 4 バブル経済崩壊により金融機関は多額の不良債権を保有することになったが、実体経済への影響はほとんどなかった。

〔C〕 文中の空欄 ( a ) ～ ( g ) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

〔D〕 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部（イ）について、この行政改革を実施したときの内閣総理大臣の氏名を書きなさい。
- (2) 下線部（ウ）について、労働三法の名称を 3 つとも書きなさい。
- (3) 下線部（エ）について、3C とも呼ばれる新三種の神器を 3 つとも書きなさい。